

新たな需要に対応したディスバッドマムの12月出荷栽培技術の確立

花き全国技術実証2023協議会【担当機関：長崎県農林技術開発センター】

背景とねらい

近年、消費者志向の変化からディスバッドマム（洋マム）と称されるキクの需要が急伸している。一方、国内におけるキクの生産は輪ギクが中心であり、ディスバッドマムの国内生産量が少ないことから、安定数量確保に向け、海外産品を志向する実需者が増えている。

そこで、輸入品に対する競争力強化に資するため、これらの需要に対応したディスバッドマムの12月出荷品種の特性を明らかにする。

実証技術の概要

定植日から消灯日までの日数が約1か月と短い中で、「SPフェリー」「カリンバオレンジ」他5品種は最上位階級である切り花長80cm以上を確保することができる。



現地実証圃（長崎県諫早市）

表1 品種別消灯時および収穫時の切り花品質

品種	切り花長 (cm)		葉数 (枚)		切り花重 (g)
	消灯時	収穫時 ^z	消灯時	収穫時 ^z	
SPフェリー	35.3	99.3±1.30	14.3	34.4±0.83	49.6
カリンバオレンジ	40.1	96.9±2.06	14.0	27.4±0.30	50.2
カルマピンク	26.1	88.3±0.84	17.4	41.2±0.65	57.6
ピンポンスーパー	22.5	85.4±1.60	13.1	31.5±1.05	34.4
アナスタシア	24.1	84.6±1.54	12.0	26.8±0.71	52.6
セイクロック	35.3	84.6±1.22	14.3	31.8±0.90	47.5
SPフェリーサニー	29.7	82.2±1.50	15.0	31.2±0.47	41.1
スーパーゴールデン	19.5	79.7±1.99	12.9	24.7±0.73	31.6
ロカイエロー	21.3	76.0±1.52	11.2	27.1±0.53	33.5
メープル	17.8	75.1±1.66	11.1	27.8±1.06	49.8
アナスタサニー	19.9	71.1±1.01	12.1	33.4±3.14	47.2
トスカーナ	14.0	64.7±1.66	9.5	28.1±.031	45.4
ミッドナイトパープル	12.0	52.7±2.63	10.6	30.6±0.88	34.7

z) 標準誤差

実証技術の経済性

経営改善効果（10 a）

販売単価
79.4円/本（輪ギク） → 99.3円/本（特殊菊）
※年度末（12月15から29日、セリ7回）における
長崎花市場の平均単価

販売金額
743千円の増

参考．経営評価（10 a あたり）

項目/品目名	ディスバッドマム	輪ギク
生産量（本）	37,350	37,350
平均単価（円/本）	99.3	79.4
販売金額（円）	3,708,855	2,965,590
生産資材費	600,766	600,766
減価償却費	727,606	727,606
動力光熱費	147,760	147,760
雇用費	685,400	685,400
出荷経費	530,402	530,402
支出合計金額（円）	2,691,934	2,691,934
所得試算金額（円）	1,016,918	273,653

※生産量および支出金額は長崎県基準技術を用いて算出

期待される効果

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、家庭需要が高まる中、輪ギクからディスバッドマムへの品目転換が進んでいる。

本研究は輪ギク生産者がディスバッドマムへ品目転換する際の品種選びの参考となるものであり、これにより更なるディスバッドマムの生産拡大が見込まれる。

表2．東京中央卸売市場における長崎県12月出荷実績

	令和5年（本）	令和元年（本）	R5/R元
輪菊	229,120	265,260	86.4%
その他菊	55,619	18,490	300.8%

（参考）東京中央卸売市場における長崎県12月出荷
その他菊出荷量の推移

